



2024年10月12日
第57号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田優一

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

10月10日

戦争の悲惨さをここ1年で多く学んだ。
元々、戦争は昔の事と思っていた。ベトナム戦争後に産まれてきた私は、ベトナム戦争を世界史等で学んできた。覚えていたのは、子供の頃イラン・イラク戦争がニュースでも取り上げられていたことくらいである。その後も各地で紛争等起こっているが、近くの国や大きな国の戦争は無かったので、平和ボケな毎日だった。

2022年2月、ロシアがウクライナに侵攻し、今この時代に戦争が起こるか？と職場の先輩と話していた。飛行機で国外に逃げる人を見て本当に大変なことが起きたと感じた。飛行機に乗れない人もたくさんいて、どうなるんだろう？と思った。毎日のように戦争の悲惨さを目のあたりにした。

2023年10月、イスラエル軍がガザ地区へ攻撃を行った。この攻撃は現在も続いており最近ではレバノンでイスラム教シーア派組織「ヒズボラ」の司令官が殺害されたと報道があったが、戦争は終わる気配がない。

2023年11月、沖縄に研修に行くことになった。初めての沖縄研修、日本軍が撤退していく行程を見て回った。最後は自然に出来たガマの中で多くの民間人が自決を余儀なくされた。その沖縄戦で悲惨な戦闘が続いたのは、大本営を地盤の固い松代へ移転するためだった。松代の地下壕に、大本営、政府各省等を移す計画をしていた。建設から9カ月で8割程度進み一応の完成にはなったが、結果的に使われることはなかった。完成の打電翌日に沖縄の司令官は自決している。この日を境に、沖縄戦での犠牲者は激増した。

本当に、なんのための沖縄戦だったのだろうか？民間人が巻き込まれ、全てを一瞬で失う戦争は現在もどこかで続いている。一つでも戦争の悲惨さを学び訴えていきたい。

(T・F)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。